

国スポ・障スポの開催に向けて

国富町立八代中学校 2年 よしの 吉野 ひゅうが 陽向

2027年、48年ぶりに宮崎県で「日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ」が開催されます。そのため、県は「宮崎国スポ・障スポ局」を新設し、競技運営、会場設備、交通、宿泊確保、県民運動などを進めています。さらに、技術力向上や手話などの歓迎準備が急いで進められています。

私はクラブチームに所属し、バレーボールをしているので、開催を楽しみにしています。そんな私ですが、ある時、体育の授業で小指を怪我したため、2週間ほど練習することができませんでした。指一本でも怪我をすると、プレーできないことを実感しました。練習を見ているだけの日が続き、「早く怪我を治してみんなとバレーがしたい」という焦りと悔しさを抑える日々でした。しかし、チームメイトが声をかけてくれたおかげで、乗り越えることができました。そんな時、ふと障スポの選手の方々のことが浮かびました。選手のみなさんは、自分よりはるかに不自由をされているのに、なぜあんなに生き生きとして見えるのでしょうか。

私は、前にテレビで見た車いすバスケットボールの試合を思い出しました。選手同士が激しくぶつかり合い、一人の選手が倒れました。すると、ぶつかった選手が手を差し出し、倒れた選手を起こして試合は再開しました。その姿を見て、スポーツで大切なのは勝ち負けではなく、諦めない強さ、認め合う心、チームワークであると感じました。選手の方々はきっと、これまでに想像を絶するような辛さや苦しみを味わってこられたと思います。それでも挑戦し続け、競技に打ち込んでこられた同志だからこそ、信頼が芽生え、ともに戦われていると思いました。そんな姿が宮崎で見られるので、私は熱い試合を実際にこの目に焼き付けたいと思います。そして、どんなことがあっても最後まで諦めずにプレーをしている選手の方々を見て、多くのことを学びたいです。私も日々の練習の中で、失敗して先生から怒られたり、思うようにプレーをすることができなったりします。その時こそ障スポの選手の方々のように立ち向かっていく精神力を培っていきたいと思います。

スポーツには人を笑顔にしたり、コミュニケーション能力を育てたりする力があります。お互いを認め合いながら、ともに支え合うことが、スポーツの最大の魅力だと思います。国スポ・障スポをきっかけに、選手のみなさんが絆をつなぎ、多くの人々がスポーツの魅力に気づき、興味をもってほしいです。そして、大会を通して、スローガン「紡ぐ感動 神話となれ」のように、選手、みなさんがともに新たな神話を創り上げてほしいと思います。私も国スポ・障スポの観戦者としてはもちろん、できることならばボランティアスタッフとして、競技を支え、大会を盛り上げたいと思います。そして、国スポ・障スポが国民のみなさんにとって、宮崎県のみなさんにとって、心に残る素晴らしい大会になるように願っています。スポーツが、認め合い、支え合う社会づくりへとつなげてくれると信じています。私もバレーボールを通して、仲間への感謝、相手への思いやりを大切にしながら、挑戦し続けていきたいです。